

## 1596年豊後地震の発生日に関する考察

松崎伸一\*(四国電力株), 日名子健二(郷土史研究家), 平井義人(日出町歴史資料館・日出町帆足萬里記念館)

### §1. 豊後地震の発生日

豊後地震発生日の解釈は、従来から混乱が見られ、閏7/9という見解[例えば宇佐美・他(2013)]と、同7/12という見解[例えば中西(2015)]がある。混乱を生じている理由は、九日と記した史料と十二日と記した史料が混在することであるが、本稿では、九日に発生したとされる伊予地震、十三日発生の伏見地震とからめて豊後地震の発生日について考察を行った。

### §2. 考察

考察には、基本的に地震直後に成立した史料を用いることとし、下表に示すものを用いた。

まず、『仏通禅寺住持記』や『日本王国記』からは地震が連続していた状況を読み取ることが出来、被災者にとっては、伊予・豊後・伏見という数度の地震(別の地震)という意識はなかったのかもしれない。九日に始まった一連の一つの災害という意識ではなかったか。そして、『言経卿記』、『孝亮宿祢日次記』、『薬師寺大般若経奥書』等から、九日20時頃に伊予地震、十三日0時頃に伏見地震が起きたのは確かと考える。そして、『南航日記残簡』からは、九日の伊予地震、十三日の伏見地震の記録以外にも、十二日に特筆される大地震があったことがわかる。これを何と解釈すべきだろうか。豊後地震だと仮定してみたい。とすると、地震の約1か月後に津波被災地(佐賀関)を訪れて記された『玄与日記』における地震及び津波の発生日(十二日)と一致する。

ここで、『略記』が豊後地震を九日(あるいは十二日)と記述しており、これをどう解釈するかの問題が生じる。豊後では九日と十二日の2回強震動を受け、十二日の地震の時に津波被害を受けたと解釈してはどうだろうか。延享三(1746)年の成立ではあるが、大地震と

津波は別の日と記す史料が日出に存在することも根拠のひとつである。津波災害発生と同時期に記された記録は、全て津波を実体験していない者による記録である。『略記』も山中の由原宮で神社関係者が地震を体験後、下界の被災状況を調査して津波被害情報を入手したものと考えるが、地震が頻発し、混乱状態にあった被災者においては、津波発生日に対して記憶が曖昧であったとしても不思議ではない。最初に強震動を受けた日の出来事として認識してしまったのではなかろうか。『興導寺大般若経奥書』も風聞に基づくものと思われ、同様の可能性はさらに高い。また、津波を実体験した人物による文書である『柴山勘兵衛記』は、豊後地震が九日に発生したと記しているが、史料の成立は地震の約20年後(勘兵衛没後/著者不明)である。内容があまりにも詳細でリアル過ぎるので、後世の作り話の可能性も考えられる。また『勘兵衛記』に依拠した『津山氏世譜』では地震発生日が閏7/13とされており、発生日については信頼性が劣ると考えざるを得ない。

以上のことから、現時点では、

閏7/9 20時頃 伊予・豊後地震

(豊後でも強震動による被害あり)

閏7/12 夕方～夜 豊後地震(別府湾に大津波)

閏7/13 0時頃 伏見地震

と考えるのが古文書間における不整合が最も少ないのではなかろうか。

さらに述べるならば、九日は、愛媛県西条市付近から大分県佐賀関付近までの中央構造線断層帯に関連する断層が横ずれ運動し、十二日の地震は、その延長に位置する別府-万年山断層帯の正断層運動により強震動と大きな津波が発生したと考えてはどうか。

古文書	史料の記録時期	地震の記述			記述内容	津波記述の有無と根拠	備考
		9日	12日	13日			
一 『日本王国記』	△	—	有※1	—	閏7/12 地震が始まり毎日毎夜ゆれ止まなかった	体験者からの聞き取りか?	地震は数日にわたり連続した
都	『言経卿記』	○	有	—	閏7/9 戌刻(20時頃) 地動 閏7/13 子刻(0時頃) 大地震	記述なし	
	『孝亮宿祢日次記』	○	有	有※2	閏7/9 酉戌刻間(19時頃) 有地震 閏7/12 亥刻(22時頃) 大地震有之	記述なし	
安芸	『仏通禅寺住持記』	○	有	有	閏7月9日より12日まで大地震ゆる	記述なし	
	『閏7/10 穂田元清書状』	○	有	—	如仰夜前者大地震事々敷儀候 御仰天令察候	記述なし	
伊予	『薬師寺大般若波羅蜜多経奥書』	○	有	—	閏7/9 大に地振候	記述なし	
豊後	『由原宮年代略記』	○	有	—	閏7/9(or12) 大地震。此日府中洪濤	体験者からの聞き取りと実査	
	『興導寺大般若波羅蜜多経奥書』	○	有	—	閏7/9 大地震。豊後奥浜悉ク海成	風聞	
	『玄与日記』	○	—	有	(閏)7/12 地震。かみの間は大波にひかれて家・籠もなし	体験者からの聞き取りと実査	
	『1596年日本年報補遺』	△	—	—	ある夜7ブラサ以上の高さで波が打ち寄せた	体験者からの聞き取り	
	『柴山勘兵衛記』	×	有	—	閏7/9 地震。大波たつて屋敷海中となる	記録者本人(或いは親族)の体験	没後の成立
薩摩	『南航日記残簡』	○	有	有	閏7/9 地震 閏7/12 大地震。夜亦震 閏7/13 大地震	記述なし	
	『薩藩旧記雑録後編』	○	有	有※2	閏7/9 薩摩は大地震也。京都は12日の夜也	記述なし	

○:地震直後, △:数か月～数年以内, ×:20年後, ※1:日付の精度は低いと思われる。 ※2:伏見地震を12日と記述。